

令和7年度第2回習志野市学校給食運営委員会 会議録

1. 開催日時：令和8年2月4日（水） 午後3時30分から午後4時30分
2. 開催場所：市庁舎3階AB会議室
3. 出席者【会長】 奥秋裕司委員
【副会長】 河村幸枝委員
【委員】 熊田奈津子委員、渡邊恵美委員、和田美江委員、新原知佳子委員
北村千博委員、安食演美委員、稲村愛梨委員、加田宏史委員
杉戸一寿委員
〈欠席委員1名〉
【事務局】 三角学校教育部長、渡辺学校教育部次長
江住保健体育安全課長、藤代学校教育部主幹
水嶋学校給食センター所長、学校給食センター田村係長
学校給食センター調所副主査、谷地副主査
【傍聴人】 1名

4. 会議の概要

開会

【会議内容】

第1 会議の公開

原則公開としたうえで、内容により公開・非公開の判断が必要となった際は、その都度、議決することに決定した。

第2 会議録の作成等

要点筆記とし、会議名・開催日時・開催場所・出席者氏名・会議内容・発言委員名及び所管課名を記載のうえ、市ホームページ及び市役所グランドフロアの情報公開コーナーにおいて公表することを決定した。

第3 会議録署名委員の指名

奥秋会長が、会議録署名委員に北村千博委員を指名し、決定した。

報告

- (1) 令和6年度習志野市学校給食関係費決算について
- (2) 令和7年度学校給食の取り組みについて
 - ①食育の取り組みについて
 - ②地産地消の取り組みについて
- (3) その他

閉会

5. 会議資料

- ・ 次第
- ・ 資料1 令和6年度学校給食費決算
- ・ 資料2 令和7年度学校給食の取り組みについて
～食育の取り組みについて～
- ・ 資料3 ～学校給食の地産地消の取り組みについて～
- ・ 資料4 Let's 食育クイズ・解答プリント
- ・ 別紙 千産千消デー実施報告書（津田沼小学校・第七中学校・学校給食センター）
- ・ 別紙 大人の食育だより

第4. 報告

(1) 令和6年度学校給食関係費決算について

事務局より資料1を基に、令和6年度学校給食関係費決算について説明。

質疑なし。

(2) 令和7年度学校給食の取り組みについて

事務局より資料2～4、別紙を基に、令和7年度学校給食の取り組みについて説明。

質疑なし。

【奥秋会長】 稲村委員、5年生の食育で、「五大栄養素の働きを知ろう」という単元を行ったそうだが、児童の様子やその後の給食の様子はいかがだったか。

【稲村委員】 食育授業については、小学校の取り組みにもあるように、5年生の五大栄養素を学ぶ単元において、栄養教諭とともに五大栄養素とは何か、栄養素が体の中でどのような働きをするのかの学習を行った。栄養素がどのように食事に取り入れられているか、バランスよく食べるにはどう考えたらいいか学んだ上で、実際に給食のメニューをどのように考えるか子供たちと一緒に取り組んだ。子供たちの考えるメニューは、どうしても自分の好きなものばかり多くなったり、バランスよく考えようということで品数がとても多くなってしまい、すごく苦戦している様子が見られ、その上でやはり、栄養バランスの整った、温かい食事を食べること

は素敵なことだと、給食に感謝の気持ちを持つ児童が増えた。

【奥秋会長】 本日の資料として、「千産千消デー実施報告書」が配付されているが、千産千消デーの取り組みや、その他食育の取り組みについて、和田委員、新原委員、給食センターいかがか。

【和田委員】 津田沼小学校の食育の取り組みについてご報告したいと思う。

資料2のページ1にある給食委員会の活動の一つの中で、今年度も9月から10月にかけて給食総選挙を行った。委員会の児童が投票用紙の作成から開票、集計作業まで行って、結果は全校児童が必ず目にする場所に掲示することにした。当選献立は、1月の末から3月までの間に、順次給食に提供しているところである。次に、資料2のページになるかと思う。

生活科の中で、ワクワク給食探検隊という題材で給食について学習した。特別支援学級のこども達が、給食室を見学に来て、板書等の写真がそちらに掲載されているかと思う。小アリーナから給食室を調理しているところを窓越しに見学することができるので、大きいお釜や大きなざる、大きなへらを使っていることに驚き、でき上がったものが、自分たちのクラスの食缶に盛りつけられている姿を見た時は、大喜びしている姿が見られた。

それから、資料3のページ4にある、10月の読書の秋に、絵本とコラボ給食を行った。絵本の題材は、「11ぴきのねことあほうどり」の絵本をもとに、コロツケを提供したところである。給食時間には司書の先生と、ゲストティーチャーで、本の読み聞かせを行ってもらった。そちらに掲載の写真が載っているかと思う。千産千消デーの実施報告書に関して、簡単にご説明させていただく。千葉県産の食材を使用した地産地消献立だが、6月の県民の日、11月の千産千消デー、1月の全国学校給食週間中、年3回実施しているところである。11月の千産千消デー献立では写真の通り、いわしをフライにして提供した。こども達が苦手とする魚なので、フライの衣にパン粉だけではなく、コーンフレークを混ぜて、パリパリの食感を加えて、美味しく楽しく食べてもらえるよう工夫した。

最後に、3月には6年生が11月、12月に、家庭科の授業で献立作成を行ったので、その際に考えられた献立を提供する予定となっている。

【新原委員】 第七中学校の食育の取り組みについてお話をさせていただきたいと思う。

毎日の給食はただお腹を満たす時間ではなく、生徒が給食を通して食べることに興味や関心を持ち、食べることの大切さに気づくきっかけとなってほしいという思いで1年間取り組んできた。取り組みを2つに分けてご紹介する。1つ目は給食を通して行われた食育の取り組みについて。今年度は特に学校生活の節目や行

事に合わせて、食に自然と目を向けてもらえるような献立づくりを意識してきた。例えば、10月のスポーツの日の前には、スポーツの日献立として発芽玄米入りご飯、牛乳、ポークソテー、ブロッコリーとチキンのサラダ、大豆入りミネストローネというタンパク質やビタミン類をしっかりと摂れる献立を提供して、部活を頑張っている生徒達に、食事は普段の練習と同じくらい大切であることを伝えた。部活で強くなるには、バランスのよい食事も大切だと、生徒に感じてもらえる良い機会となった。また、合唱コンクールの前日には、合唱コンクール応援献立として、蓮根や生姜、蜂蜜や大根おろしなど、喉に良いと言われる食材を取り入れ、クラスで一生懸命歌の練習をしている生徒達に、給食を通して応援したいという気持ちを込めて給食を提供した。さらに、前回の会議の時にもお話したが、家庭科の授業の中で、生徒が考えた主菜を給食の献立に取り入れる取り組みを続けている。生徒が考えた料理が実際の給食に登場することで、学校全体の給食への関心が高まり、毎月誰が採用されるのか、楽しみにしている生徒もいるようだ。1月の全国学校給食週間では、先ほど説明があったように、学校給食の意義や歴史に目を向ける期間として、各校で様々な取り組みが行われている。本校でも毎年、地域の食文化に触れるきっかけや、食への興味関心を高めたいという思いで、各県の郷土料理や、千葉県産の食材をたくさん使用した千産千消献立、七中の生徒に人気があるメニューなどを取り入れている。こうしたイベント的な献立を含め、毎日の給食を通して、食べるのが少しでも楽しくて、身近に感じてくれたら良いなという思いで作っている。

2つ目は、職員向けの大人の食育だよりについて、一番最後に資料として入れているが、こちらも前回紹介させていただいた。こどもだけではなく、学校全体で食を大切にする雰囲気育てたいという思いから、昨年度から職員向けに毎月2回発行している。その日の献立のポイントや、大切にしていること、調理場での苦労話、それから季節の食材、健康に役立つ情報などを記載し、生徒だけではなく、教職員も食への関心が広がるように心がけている。最後になるが、日々の食育の取り組みを通して、生徒が食べるのが楽しくて、大切なことなんだということを感じてくれる場面が少しでも増えていったら嬉しいと思う。これからも毎日の給食を心を込めて作り、生徒の成長に寄り添う給食を続けていきたいと思う。

【調所副主査】 給食センターの食育の取り組みについてご報告させていただく。

給食センターの場合、常に学校に栄養士がいるわけではないため、毎月1回は訪問して、児童の様子を見るようにしている。なかなかすべてのクラスを回ることはできないので、先ほど見ていただいた通り、視聴覚資料という形で、月に1つずつ動画作って、学校の方で見ってもらうようにしている。資料の2の1ページのところにある通り、今年度は9つの動画を作り、見ていただいているところであ

る。学校により状況に違いはあると思うが、平均的には7割から8割ぐらい見ていただいていると、アンケートで確認している。先ほど七中からも紹介のあった学校給食週間については、今年度は、各国のオリンピック開催国の料理ということで、イタリアやフランス、中国、韓国、日本という形で、メニューを考えて出した。給食なので、本来のフランス料理、イタリア料理というわけではないが、「毎日楽しみだという声」を、毎日各学校とやりとりしている連絡帳を見て、感じている。授業については、2月まで終わると、44回、延べクラス数では124クラスの実施ということになる。昨年よりも増えているので、各校の関心が高まったと感じているところである。内容については資料にある通りで、それぞれの学年に応じたものを、朝食、五大栄養素等の内容でお話している。これらの他、地域との関わりでは、7月に屋敷連合町会の、給食センター見学会があり、講話を聴いた後、試食をしていただいた。アンケートで、「冷たいものは冷たく運ばれていることを知り、センターは保温性が高く、温度管理できる食缶で配送していることに感動した」、「栄養も美味しさも考えているのだな」等のご意見をいただいた。

【奥秋会長】 他にご意見、ご質問等はあるか。

【渡邊委員】 いつもおいしい給食をありがとうございます。藤崎小学校では、コロナ禍以降行っていなかったが、11月にPTAで給食試食会を開催し、栄養教諭の先生のお話もしていただいた。事前に聞きたいことを保護者からアンケートで集め、当日にそれについて答えていただいた。家庭での食事づくりへのアドバイスもしていただけて、とても参考になったと皆喜んでいて、実際は給食の試食も、家だともどもが食べにくいような魚や野菜を、調理法を工夫して作られていることが分かり、美味しく、みんなで頂くことができた。好評だったので、来年も行いたいと思っている。資料にはないが、2月と3月分の給食費を市の方で負担してくれるとのことで、喜んでいて保護者が多かった。来年は国の方でまた色々変わってくると思うが、その話の段階でも保護者間では、喜んでいて感じになっているが、そのあたり何か決まっていることがあったら教えていただきたい。

【奥秋会長】 事務局から答えていただけか。

【藤代主幹】 今委員からお話いただいたように、今年度2月、3月については、国からの物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金という交付金が入るということで、保護者の経済的な負担軽減のため、公費負担で対応させていただく。2月、3月に提供する給食の分の給食費を、市が負担することになっており、保護者が負担する給

食費は、1月分までとなるということをお知らせさせていただいているところである。1月までにお子さんが食べた給食費の徴収については、今後、具体にお知らせをさせていただく。令和8年度の対応については、国においては、抜本的な給食費の負担軽減ということで、閣議決定がされており、公立小学校のお子さんに関しては月額5,200円を、国が支援するというので、今後国会の方で審議されるということになっている。まだ詳細な自治体への説明はないが、準備を進めているところである。

【奥秋会長】 よろしいか。他にご意見、ご質問はあるか。

【渡邊委員】 中学校の給食費についてはいかがか。

【藤代主幹】 国は、まずは小学校から始めるということで、中学についてはまだ話が出ていない。市の対応は検討中である。

【渡邊委員】 ありがとうございます。

【奥秋会長】 他にご意見、ご質問等はあるか。それでは、最後にその他として事務局から連絡等があればお願いしたい。

【その他（事務局連絡等）】

今回の会議が最後の会議である。会議録はでき次第、委員の皆様へ送付させていただく。

【奥秋会長】 以上をもって、令和7年度第2回習志野市学校給食運営委員会を閉会する。